亀田ニュース

2022
No.990
7月15日号

●〒296-8602 千葉県鴨川市東町929　●TEL04(7092)2211㈹　●発行責任者 亀田隆明　●作成 広報企画室　●毎月1日・15日発行

熱中症にご注意を

例年よりも梅雨明けが早く、酷暑が続いています。いつもの夏よりもさらに熱中症に気をつけましょう。

<熱中症とは>

高温多湿な環境に長時間いることで体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態のことをいいます。屋内で何もしていないときや夜間でも発症することがあります。

<特に注意が必要な方>

・高齢の方、お子さま、障がいをお持ちの方

高齢の方は暑さや水分不足に対する感覚機能や調整機能が低下しているため、お子さまは体温の調節能力が未発達なために、様子がおかしいと思ったときには重症化している、という可能性もあります。周りの方がこまめに声掛けや観察を行ってください。

熱中症が疑われる人を見かけたら、

①涼しい場所へ避難させる。

②衣服をゆるめ、体を冷やす。

③水分・塩分を補給させる。

※自力で水が飲めない、呼びかけても応答がおかしい、意識がないときには、ためらわずに救急車を呼びましょう。また、応急処置をしても症状が改善しない場合も医療機関を受診ください。

新型コロナワクチン 3・4回目接種は8月末まで

当院での新型コロナワクチン3・4回目接種は、8月27日(土)が最終日となります。接種をご希望の方は、お早めにご予約ください。

接種会場　亀田クリニック(受付:1階　接種:3階)

接種日時　毎週金・土曜日(祝日を除く)
14:00～16:00

使用ワクチン　武田／モデルナ社ワクチン

インターネット予約

左記QRコードまたはホームページ(http://www.kameda.com/ja/clinic/)から予約画面の案内に従ってお申込みください。

※メールアドレスと接種券一体型予診票が必要です
※ガラケーからの申し込みはできません

電話予約

予約電話番号　04-7099-1330

対応日時　水・木・金曜日(祝日を除く)
14:00～16:00

※ご予約には診察券と接種券一体型予診票が必要です
※おかけ間違いのないようご注意ください

地域連携小児夜間・休日診療について

当院では、地域の小児科の先生方と連携を取り、夜間や休日で小児の急病の場合に常時診療可能な体制を整えています。受診される際は、事前に代表番号(☎04-7092-2211)まで、電話連絡をお願いいたします。

＜診療＞・平　日　夕方18：00～朝8：00
・土曜日　昼12：00～夜24：00
・日曜日・祝日　終日

当院のオンライン診療について、詳しくは専用ホームページ(https://online.kameda.com/消化器外科-角田明良/)をご覧ください。

直腸・肛門疾患

オンライン診療はじまりました

ちょっと話しにくいおしりの悩み、オンラインで相談してみませんか

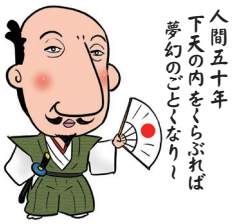
ご相談はこちらから

https://online.kameda.com/

第5話 現代医学の飛躍的な進歩と漢方の衰退と復興

分析し調べていくことで原因がはっきりした病気、例えば細菌やウイルスの感染、腫瘍(できもの)による不調、また脳卒中や心筋梗塞の予防につながる高血圧や糖尿病の治療などに対し、現代医学は素晴らしい効果を発揮します。そのおかげで今われわれの寿命はこれだけ延びました。現在、日本人の平均寿命は女性87歳、男性も81歳を超えました。日本人女性の４割は90歳を超えて長生きされるそうです。

織田信長が桶狭間の戦いの前に「人間わずか五十年…」と舞った話は有名ですが、実は日本人の平均寿命が50歳を超えたのは割と最近、戦後のことです。その頃生まれた方は、人生50年と思って生きてきたら、実際50歳になってみて30年も寿命が伸びているのですから、ここ70～80年の間の医学の進歩のめざましさがわかります。



織田信長

ところで19世紀後半の明治維新の際に、明治新政府は当時蘭方と呼ばれた西洋医学のみを医療制度として認定し、江戸時代まで日本の医療の中心であった漢方医学を切り捨てました。明治の医制では漢方医学は医療とは認められなくなったのです。その後漢方は大きく衰退し、一部の心ある医療者によって細々と伝えられるに過ぎませんでした。

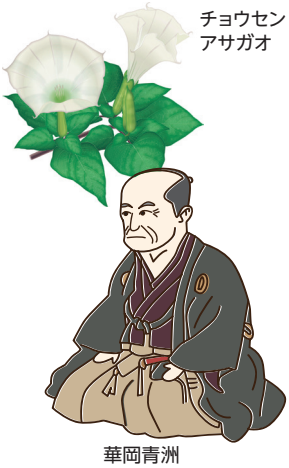
これについて、「とんでもなく間違った決定だった！」という漢方医は多いのですが、私はこれは慧眼(けいがん)で妥当な判断だったと思います。

当時の蘭方は、病気の原因となる微生物の存在を次々と明らかにしたり、解剖学や外科治療の進歩など、まさに文明開化の時代にふさわしい新しい医学に見えたのでしょう。「人体の構造を知ろうともしない漢方など、時計の図面も持たずに外からやみくもに油を差しているようなものだ」と揶揄(やゆ)されたと言います。当時の医学進歩の勢いがあれば、すぐに人間の構造もすっかり理解できて「詳細な図面」が手に入るようになると考えられていたのでしょう。

実際には2003年にヒトの遺伝子はすべて解読されましたが、それがどのように働いているのかについてはまだほとんど分かっておらず、人体の構造はまだまだ未知の世界です。科学が発展してきて逆に、ヒトのすべてを理解するにはまだまだ我々は無力だということが分かってきました。だからこそ今、人の心身を俯瞰(ふかん)的に捉える視点として漢方が再び必要になっているのですね。

明治時代に切り捨てられたのも、平成令和になって復興してきているのも、ともに時代の必然なのだと思います。

ちなみに…当初の外科手術は麻酔無しでした!! なんと恐ろしい…。1846年にエーテル麻酔が初めて成功しますが、実はそのはるか前1804年に通仙散(麻沸散)というチョウセンアサガオに今でも使われる数種類の漢方生薬を配合した経口麻酔薬を使って外科手術を成功させていたのが日本の華岡青洲です。

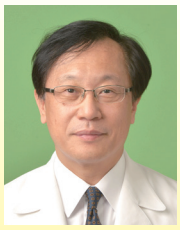


華岡青洲

医療エッセイのバックナンバーは下記よりご覧いただけます
http://www.kameda.com/ja/general/about/magazine/index.html

医師紹介 高橋(たかはし) 克仁(かつひと) 医師

①担当科目
②診療における得意分野
③趣　味
④ひと言



①肉腫科部長
　肉腫総合治療センター長
②希少がん肉腫、がんゲノム医療
③読書
④新治療薬・新規治療法の開発に全力を尽くします

Kameda Medical Center
亀田ホームページ http://www.kameda.com